

2020年度 委員会事業報告書

担当副理事長 永坂規明
次世代共育推進委員会 委員長 飯田匡崇

1. 委員会開催日（12回）：

2.

1 / 22 2 / 27 3 / 25 4 / 16 5 / 29 6 / 27
7 / 27 8 / 31 9 / 28 10 / 29 11 / 7 12 / 7

3. 事業報告：

- | | |
|-------------------------------|-----------|
| (1) JCデー（8月例会）の担当 | 11月14日 |
| (2) 次世代教育に関する事業の担当 | 4月～7月（中止） |
| (3) 西尾張6JC合同事業（JCカップ西尾張予選）の担当 | 3月（中止） |
| (4) 第18回わんぱく相撲海部津島場所（5月事業）の担当 | 5月（中止） |
| (5) わんぱく相撲（愛知ブロック大会）の担当 | 6月（中止） |
| (6) 防災に関する担当 | 通年 |
| (7) 新入会員の拡大 | 通年 |
| (8) 新入会員の育成 | 通年 |

4. 委員会メンバー：

飯田匡崇 田島成剛 加藤大晴

出向メンバー：

藤田哲朗 佐治 隆

5. 反省点及び申し送り事項：

当委員会では、子供たちが次代を生き抜く力を身に付けるとともに、保護者世代が子どもの力を一緒に伸ばしていくことができるようになることを年間の目標としてきました。

わんぱく相撲では、子供たちが次代を生き抜くために必要な力の要素の一部である健やかな体と豊かな心を会得する一助とするために、運動意欲の向上と礼儀礼節を備えた豊かな心を培うことを目指しました。相撲に加えて、他の企画を通して、上記目的を達成する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、3月から5月までは小学校が一斉休校となり、密や接触を避けるために他の事業や他のわんぱく相撲地区大会が中止となっていく中で、わんぱく相撲海部津島場所も開催はできませんでした。相撲連盟・協働者と打合せを進めていた際には、塵手水等の各企画について、一定の興味をもっていただき意見をいただきました。事業当日に向けて、相撲連盟や協働者に、当日の企画についても現時点での案として定期的に話をすることが、事業準備には円滑であることを申し送りさせていただきます。また、わんぱく相撲は単年度制の青年会議所で行われる継続

事業であり、開催日時・予算・事前の動き等で委員長・委員会が直面する慣習や不文律のようなものに多く直面しました。その中には、一定の意味が認められるものの必ずしも合理的とはいえないものもあれば、書面による申し送りが適さないものもありました。これらについては、その存在を次年度に引き継ぐとともに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でわんぱく相撲の在り方も変革の時期に来ている面もあるので必要に応じて担当委員長とともに改善に努めていきたいです。そして、新型コロナウイルス感染症拡大に関しては、当初は相撲連盟や行政担当者もその影響を軽視しているように感じました。もっとも、3月には他のLOM等に対しては相撲連盟としての審判派遣は行わないという連絡が届き、当青年会議所に関しても4月には中止が妥当という意見をうかがいました。相撲連盟や津島市のスポーツ担当としては、大会開催により感染が拡大することを心配するとともに、緊急事態宣言により上位に進出する児童が所属しているスポーツクラブ等の練習も開催されなくなり急に身体を動かすことで大きな怪我をすることを心配していました。現在、感染症対策の情報の蓄積もされつつあり、前記のような怪我の懸念がない状況であれば、感染拡大状況に応じて検討することにはなりますがwithコロナで大会開催も考えていけると思います。現時点では、例年開催されているちゃんこ鍋のような飛沫感染のリスクの高い企画を行わず、参加人数を絞って、入替制や屋外での開催が検討されます。なお、協賛金の返金処理や協賛申込書原本受領に関しては、一部の方からは煩わしいとの意見をいただきました。事業に関して協賛依頼を行う場合には、今後は返金処理を行うこともあり得るなどのこれまでに生じたデメリットを踏まえた上で、選択する必要があると考えます。また、協賛手続きについて、現状は、協賛の申込みに対して協賛申込書原本を受領する運用とされてきました。一方で、協賛申込書がファックスやメールにて事務局に送られてくる場合もあれば、電話や口頭で協賛の申込みをいただく場合も増えています。このような場合に、社会では脱ハンコの時代が到来しようとしており、申込者に原本をいただきたい旨を連絡すると煩わしがられる面も多々ありました。そして、協賛申込者に協賛の意思がはっきりしているにもかかわらず、協賛申込書原本により、その意向や原本性を確認する必要性も少ないです。協賛申込書の原本手配に関しては、ファックス・メール・口頭等で協賛の申込みをいただいた場合に、担当者として電話等でお礼の連絡を差し上げてその意向を確認して、理事会資料としては協賛申込者の一覧表で対応することも選択肢になると考えます。協賛依頼を行う場合には、この点を踏まえて事前にその手続きの検討が必要となることを申し伝えさせていただきます。

また、次世代教育に関する事業では、プログラミングを通じて、試行錯誤しながら課題解決に向かっていく探求する力を養うことを目指しました。本事業も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で計画通りにとり行うことが難しくなり、開催できませんでした。レゴブロックのプログラミング教材（「WeDo2.0」）を通して、教えてもらうのではなくて自身で確認して基礎的なプログラミングから学んでいき、最終的にオリジナルのロボットを組み立てて体得したプログラミングで動かしてみることを予定していました。これにより参加者には探求する力が芽生えて、JCデーにもつながるものと考えていました。予定者期間から、次世代教育に関して知見のある椋山女学園大学教育学部教授・同附属小学校校長森和久氏に、副理事長・副委員長と話しをうかがいに行きました。森氏からWeDo2.0を用いた授業の様子をうかがい、同教材が協働的探求に適していると考えて、海部津島で同教材を用いた事業を計画しました。当初は椋山女学園大学付属小学校から備品であるWeDo2.0を借りることに難色を示されて、複数の業者に掛け合いましたが色よい返事が

いただけませんでした。その後に森氏に相談をしたところWe Do 2. 0を貸していただき、ワークシートも提供いただけることになりました。私立小学校の備品や教材を使用して、事業を行うことが可能であったのは、個人ではない青年会議所という団体の力であると考えます。事業を計画する中で、社会・学習指導要領が想定する人材育成を学び、課題解決に向けて試行錯誤していくことが今後も益々求められる力であると考えに至りました。今後、次代を生き抜く力を子供たちに取得させることを目的とする事業を計画する場合には、社会が求める人材や学校教育の現場を確認することが適するものと考えました。その旨を申し伝えさせていただきます。

そして、JCデー（8月例会）では、市民に対して、探求する力を身に付けることで子供たちが次世代で活躍できるようになることを伝えるとともに、保護者世代がその力を一緒に育む意識を醸成することを目的として準備を進めてきました。当初は、子どもから保護者世代への働きかけも検討していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、開催方法をオンラインでのリアルタイムの配信としたことで、保護者世代から子どもへの働きかけをメインとしました。基本方針で予定していた、次世代で求められる人財や探究する教育の必要性・可能性は、その道に通じたパネリストが伝えることで、市民に発信ができたと考えています。内容を保護者世代向けとすることで、保護者世代の共育への意識の醸成につながったものと考えています。事前の事業広報の際には、当日に都合が悪く参加できない方でも心に話を聞いて意見交換をしていただけた方が複数名いました。市民意識の変革の端緒は事業の事前説明等の際にも芽生えてくると感じました。

年間を通して、運動意欲の向上・思いやり・探求する力にフォーカスして、次代を生きる力を子供たちに身に付けていただくことを念頭に活動してきました。わんぱく相撲及び次世代教育に関する事業は理事会で審議可決した事業の実施ができず、JCデーも当初の計画からは変遷がありました。結果として、次代を生きる力の全てを網羅することはできませんでしたが、担当した事業で次代を生き抜くための力の要素としてメインと位置付けてきた「探求する力」の発信・家庭でその力を育むことへの意識付けができました。

6. 委員長所見：

「共育」をお題目にいただき、予定者期間から子供が次代を生き抜く力を獲得するためにはどのような設えが必要かを考えさせていただき、委員長としての課題発見や解決に向けた試行錯誤を実際に体験させていただきました。想定外の課題や庶務に戸惑うこともありましたが、それも含めて委員長特有の学びや体験として、色濃い経験をさせていただいた一年でした。

わんぱく相撲及び次世代教育に関する事業は、事業実施に向けて、多くの関連する書籍を読んで、相撲連盟、協働者及び椛山女学園大学同附属小学校等と打合せをしていく中で、インターネットや過去の議案の確認だけでは辿り着けなかった解に出会うことがあり、外に出て情報を集めながら事業構築をしていくことの醍醐味を知りました。しかし、両事業は、3月理事会で審議可決いただき準備を進めていくところで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく出てきて、計画通りの実施が困難となり開催ができませんでした。準備に多くのメンバーの協力を得ていながら、自身が描いた事業で、予定していた変化が対象者に起きたのかを確認することができなかったことは悔やまれます。

JCデーは、当初や途中の計画通りに進まず歯がゆい思いがありました。それも含めて、反省す

る材料であり勉強になったと思います。そのような中でも、LOMメンバーに協力していただき、オンラインでの開催であってもJCデーはメンバーで作りあげられていくということを実感しました。今回は新型コロナウイルス感染症拡大のために、人を一か所に集めない形でのJCデーとしての開催でした。加えて、保護者がメインターゲットとなる事業でした。そのため、これまで青年会所が開催してきた事業とは違った毛色があったと思います。事後のアンケートやお礼の電話等からは、オンラインであっても発信方法を工夫して市民に対して運動発信することは可能であり、保護者をメインの対象とした事業でも開催の意義はあると感じました。担当した委員長としては、今回のJCデーが、海部津島から次代で活躍する人財が誕生する一助となれば幸いです。そして、感染症拡大による社会情勢の変化や時代の進化に応じて、今後も同種の事業構築が行われる可能性もありますので、その際には今回の経験を少しでも伝えていきたいです。

最後に、今年度は事業構築にあたり、知見・経験が不足している委員長に対して、担当副理事長・委員会メンバーだけでなく、多くのLOMメンバーにご助言・ご協力をいただきました。皆様のおかげで、私自身が多くの探求をさせていただき、学ばせていただきました。皆様へのお礼と今年度の経験を活かしていくことを約束して、委員長所見とさせていただきます。

7. 収 支 決 算 :

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	269,000	事業費	11,344	(2)	200,000	(2)	0
				(3)	19,000	(3)	0
				(4)	50,000	(4)	11,344
合 計	269,000	合 計	11,344	合 計	269,000	合 計	11,344